

1. 授業のねらい・概要

毎日のニュースをみていると「前日に比べて2円円安の1ドル120円でした」と解説者がテレビで話したり、または新聞記事で書かれてあるのを目にすることがあるだろう。私たちの日常生活をとっても海外旅行に行くときに、銀行や交換所で円を旅行で行く先々の通貨と交換する。その時の交換比率が旅行にいく前と後では変化していることに気が付くことも今は多いだろう。この授業では、このように日々変化し、また我々の日常生活でも身近な情報である為替レートがどのような理路で決まるのか、それを経済学的な観点から考えていく。そして国際間のおカネのやりとりが、日本や世界の経済とどのように関連しているのか、をも考察の対象とする。

2. 授業の進め方

指定した教科書などを参考に内容を時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく国際金融の理解が深まるように講義は進行していくだろう。

3. 授業計画

1. 国際金融と日本・世界の経済	9. 為替レートとユーロ圏
2. 国際金融とGDP関連統計	10. 戦前の国際金融と世界恐慌（1929年以前）
3. 貨幣の役割とマクロ経済	11. 戦前の国際金融と世界恐慌（29年以降）
4. リーマンショック後の日本の金融	12. 戦後の国際金融制度（ブレトンウッズ体制）
5. 外国為替市場の仕組み	13. 戦後の国際金融制度（フロート移行）
6. 為替レートの決定理論	14. 現在の国際金融制度と世界経済
7. 為替レートの決定理論：応用	15. 最新のマクロ経済学と国際金融
8. 為替レートと日本経済の関係	

4. 到達目標

国際金融の理論と制度、歴史の基本項目について、一通りの理解と習得ができていること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

6. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価していく。

7. テキスト・参考文献

教科書として以下に準拠して講義を行う。ただし高価なので購入する必要はない。講義で理解は完結できる。

クルーグマン&オブストフェルド&メリッツ『国際経済学 金融』（丸善出版）

8. 受講上の留意事項

特になし。